

# 研究トピックス

## ジベレリン処理によるジネンジョ芋の肥大促進

ヤマノイモ類のむかご着生はジベレリンにより抑制される性質があります。この性質を利用して、むかごの数を減らしてジネンジョ新芋の肥大を促進し、増収させる技術の開発を進めています。より少ない散布で有効なジベレリン処理方法を目指しています。なお、この処理方法には農薬登録が必要です。

(山間農業研究所)

本研究は農林水産省実用技術開発事業で実施しています。



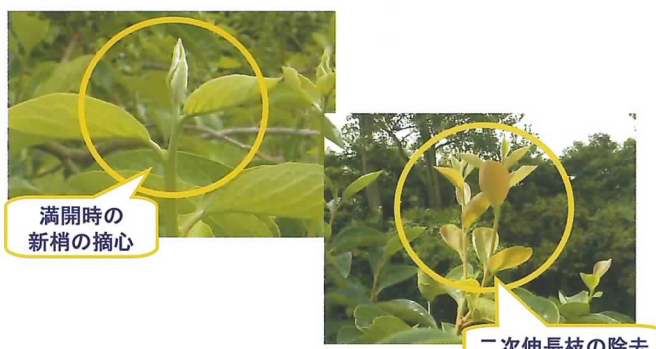
ジベレリン処理区

無処理区

## カキ新品种「早秋」の生理落果抑制

「早秋」は9月下旬から10月上旬に成熟する食味の良い完全甘ガキですが、生理落果が多く着果が不安定です。この対策として、①結果母枝に長さ20~30cmの枝を用いる②「禅寺丸」などの花粉を用いて人工受粉を行う③満開時に着花した新梢を先端2~3芽で摘心し、その後二次伸長した部分を除去することで着果率が向上することが明らかとなりました。

(園芸研究部)



満開時の新梢の摘心

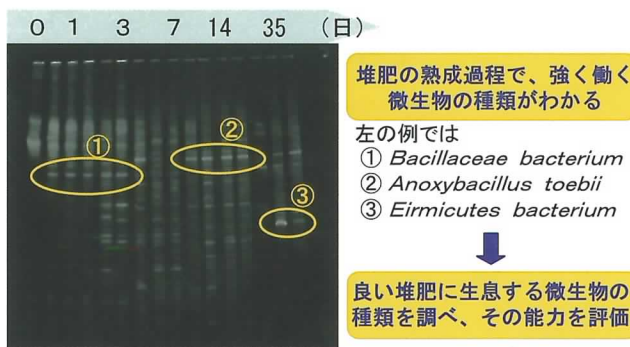
二次伸長枝の除去

## 良質たい肥生産を支援する微生物指標の探索

家畜ふんのたい肥化状況を的確に判断する方法の確立に向けて、成分や温度変化等の測定と、たい肥化の主役である微生物に対する遺伝子解析技術を用いた調査を同時に行い、相互の関連を調べる試験を開始しました。

今後、農家等のたい肥も調査し、良質たい肥生産に活用できる的確な微生物指標を見出すよう、研究を進めていきます。

(畜産研究部・環境基盤研究部)



たい肥中の微生物の遺伝子解析 (PCR-DGGE法)

編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1  
TEL 0561-62-0085 内線323 (企画普及部)  
FAX 0561-63-0815  
<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>